

日本大腸肛門病学会専門医修練カリキュラム経験数（１）

内科・放射線科・病理科・その他

a 外科

b 肛門科

検査および処置		a	b
注腸造影（読影） *	100	100	30
全大腸内視鏡 *	300	100	50
内視鏡的ポリヘクサミ-EMR など *	80	30	10
超音波（読影：腹部、肛門、大腸）	100	100	30
CT・MRI（読影：腹部、骨盤）	100	100	30
直腸・肛門診	30	100	300
合計数	710	530	450

* では術者としての経験のみを認める

手術 **	a	b
結腸切除(部分切除、半切除及び大腸全切除)	30	10
直腸切除術及び直腸切断術	30	10
人工肛門造設術及び腸瘻造設術	10	10
肛門疾患(痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍、裂肛など)	50	200
合計数	120	230

** 助手としての経験も認める

注： 、 a、 b、のうち基本診療科を選択し、各カリキュラムの項目別に規定された数を十分に満たす症例を提出のこと。

日本大腸肛門病学会専門医修練カリキュラム評価（２）

診療項目		a	b
大腸・肛門の機能的疾患 (過敏性腸症候群,慢性下痢,便秘, 機能的閉塞症,排便困難など)	A	A	A
潰瘍性大腸炎	A	A	B
クローン病	B	B	B
感染性大腸炎	A	B	C
腸結核	C	C	C
虚血性大腸炎	B	C	C
薬剤性大腸炎	B	C	C
大腸憩室症	A	A	B
大腸ポリ-プ	A	A	A
家族性大腸腺腫症	C	C	C
結腸癌	A	A	A
直腸癌	A	A	A
ヒルシユスプルング病	C	C	C
直腸・肛門奇形	C	C	C
痔核	B	A	A
痔瘻または肛門周囲膿瘍	C	A	A
裂肛	C	B	A
直腸脱	C	B	A

A：十分な経験および知識を有する

B：少数の経験でよいが、十分な知識を有する

C：経験がなくてもよいが、十分な知識を有する